

平成30年度第1回安城市地域ケア推進会議

日時 平成30年4月19日(木)
午後1時30分～午後3時
場所 社会福社会館 3階 会議室

- 1 高齢福祉課長あいさつ
- 2 出席者紹介
- 3 会長・副会長選出
- 4 会長あいさつ
- 5 会議の概要説明
- 6 議題

(1) 平成29年度地域包括ケアの取り組み及び平成30年度事業計画について(資料1)

(2) 施設整備について(資料2)

(3) 各部会主催の研修運営について(資料3)

連絡事項

- ①サルビー見守りネットの運営について(資料4)
- ②在宅医療・介護連携推進のための研修会について(資料5)
- ③地域ケア推進会議に関する連絡について

高齢福祉課地域支援係 電話71-2264 FAX74-6789

メールアドレス koufuku@city.anjo.lg.jp

事務局からのメールの件名: 【安城市地域包括ケア】○○○・・・



次回 平成30年5月17日(木) 午後1時30分～3時 社会福社会館 会議室

(1) 平成29年度地域包括ケアの取組について

1 各地域での取り組み

(1) 地域見守り活動について

市内の全町内福祉委員会で見守り活動を実施

*参考：81町内会で76福祉委員会が設置されている

(2) 地域ケア個別会議

個別ケースの支援内容について、ケアマネ、介護関係者、医療関係者、地域の関係者等多職種で検討する会議。地域包括支援センターが開催する。

地区	開催回数 (H30.2 末)
東山	12回
安城北	19回
篠目	29回
安城南	5回
安祥	15回
安城西	10回
明祥	3回
桜井	23回
合計	116回

医師参加回数 13回 (H27:8回)

リハビリ専門職 6回 (H27:6回)

(3) 地域ケア地区会議

地域ケア個別会議の積み重ねなどから地域の課題を挙げ、住民でできること、専門職でできること等対応策を検討し地域づくりや政策形成に結びつける。地域包括支援センターが開催。

地区	回数	主な内容
東山	4回	認知症カフェの開催にむけての支援と専門職の関わり方 認知症カフェの身近な場所で開催するための検討
安城北	2回	地域の自助力の向上と専門職と地域の連携
篠目	3回	マンション住民への対応方法 専門職と地域との連携
安城南	2回	ゴミ出し支援に向けた地域づくり・体制づくり
安祥	2回	地域の支えあいの中で必要な活動・支援について
安城西	8回	認知症の理解を深めるための取組 一人暮らし高齢者・要援護者等の見守り体制
明祥	2回	認知症を理解した支地域での支えあい
桜井	7回	子供も含めて認知症への理解を広げる 徘徊等認知症への対応 専門職間の連携

(4) 成果

すべての地区で、医師、歯科医師、薬剤師、介護関係者、地域住民が参加し、医療、介護を含めた話し合いができています。地区によっては、小学校区等対象地域を狭くして検討したり、医療福祉の関係者だけの地域ケア地区会議を開催するなど地域の特性により開催方法を工夫し、地域の問題を住民と専門職とで共有することはできました。

(5) 課題

地域包括ケアや認知症などの説明を含めて開催することも多く、限られた時間の中で地域課題の解決策の検討までできていない。具体的な解決策の検討、保健福祉部会や地域ケア推進会議への提案など地域包括ケア推進に向けたスキルアップが必要である。

2 地域ケア推進会議

(1) 開催回数 12回（毎月開催）

(2) 参加者 15の部会から代表者2名（小規模多機能部会は1名）

(3) 参加部会

病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーションネットワーク、訪問リハネット、ケアマネット、小規模多機能部会、デイネット、ヘルパーネット、施設、グループホーム、保健福祉、地域支援（民生委員・町内会長）、住まい

(4) 主な検討・協議内容

ア 各部会の研修について

イ 各部会の検討結果等について

ウ 在宅歯科診療フローチャートについて

エ 在宅医療の普及啓発の方法→福祉まつり、広報、ガイドブック、劇団など

オ 認知症施策について（認知症高齢者捜索声かけ模擬訓練・見つかるつながるネットワークの運用、認知症サポーターステップアップ講座など）

カ 見つかるつながるネットワークの運用と課題

キ ICTを活用した情報共有システム「サルビー見守りネット」の運用

ク 高齢者の住まいについて

ケ 避難行動要支援者制度と地域の見守りについて

(5) 各部会主催による研修会の開催

主催した部会	内 容
病院・医師会	多職種ワークショップ研修会 病診連携及び退院カンファレンスに関する研修会
施設	アンガーマネジメント
医師会	安城市エンドオブライフ・ケア研修会（2回）
訪問リハネット	地域包括ケアシステムにおける社会参加を重視したリハビリテーション
グループホーム	虐待についての勉強会
薬剤師会・ケアマネット	在宅服薬支援における多職種連携に関する研修会
デイネット	地域との事業所（施設）との関係づくりについて
医師会・ケアマネット	在宅医療におけるサルビー見守りネットの活用方法
歯科医師会	口腔ケア研修会「口腔ケアの実際」
保健福祉	住民による移動支援
保健福祉	精神障害者（引きこもりを含む）への支援（関係機関との連携、具体的なアプローチ方法について）
ヘルパーネット	うつ病等精神疾患の人とのかかわり方と疾患の基礎知識
訪問看護ネットワーク	訪問看護とケアマネジャーの相互理解を深めるための研修会
グループホーム	薬の副作用・薬を減らすための取組についての勉強会
訪問リハネット	事例検討会
訪問看護ネットワーク	事例検討会
歯科医師会	嚥下訓練と連携について

(6) 部会ごとにテーマについて検討

部会名	検討テーマ
病院	緊急時の受入
医師会	在宅医療の充実に向けて
歯科医師会	医療・介護連携での歯科医療の役割
薬剤師会	多職種連携
訪問リハネット	自立支援を視野に入れた目標設定について
訪問看護	医師会との勉強会
ケアマネット	I C Tの活用介護保険制度運営上の問題点
小規模多機能	地域包括ケアシステムにおける小規模多機能型居宅介護の役割
デイネット	総合事業と地域との連携について
ヘルパーネット	総合事業への参入について
施設	地域・事業者間の連携について
グループホーム	地域の認知症をサポートする支援の取組について 各グループホームで困っていることについて 部会を超えた異業種との繋がりが持てる機会の検討
保健福祉	住民主体（地域活動）による移動支援について 地域活動に介護職が協力できそうなこと

(7) 成果

- ア 関係者が顔を合わせる機会が増え、顔の見える関係づくりが出来ている。また、業務以外で交流する機会が増えている。
- イ 研修会を各部会で企画することで、多岐にわたる研修を開催できる。
- ウ 劇団サルビー見守り隊の立ち上げとミニ公演の実施
- エ サルビー見守りネットの利用促進

(8) 課題

- ア 在宅医療介護連携のための研修会の参加者が固定化されてきている
- イ 在宅医療介護連携のための研修会の内容の周知方法や運営方法の検討が必要。
- ウ 地域ケア地区会議から地域ケア推進会議への提案事項がなく、地域の課題に関する検討・協議につながっていない。

3 介護予防・生活支援体制整備

(1) 主な取組内容

- ア 生活支援ネットワーク会議の開催
各中学校区で1～2回開催
- イ マッチング交流会&サロン博覧会の開催（1回）
- ウ あんじょうコミュニティBOOKの作成と活用
- エ 地域見守り協力店
8中学校区で展開
- オ 町内会サロンや町内会健康体操教室への運営支援
- カ 高齢者地域生活支援等実施団体活動支援事業の活用支援
- キ 町内福祉委員会の見守り活動支援
- ク サロンなどの担い手を対象にしたリハビリ専門職による支援と助言

(2) 成果

- ア 高齢者地域生活支援等実施団体活動支援事業申請（一般介護予防型）団体の増加
- イ 地域見守り協力店の増加
- ウ 新規サロンの増加と既存のサロンの活動の充実

(3) 課題

- ア NPO 法人や生協、民間企業など町内会組織以外の活動についての把握とネットワーク化を行っていない。
- イ 訪問系の生活支援を行う住民活動がない。また、要支援者等を中心に受け入れを行うサロンなどがない
- ウ 住民活動の担い手不足

4 認知症・高齢者見守り事業

(1) 主な取組内容

ア 高齢者見守り事業者ネットワーク事業

新たに17の民間事業者団体と協定（合計34事業者）

協定先のひとつである新聞販売店と日本郵便にチラシを配布

水道業務課（水道検針員）と行政課（行政連絡員）に協力を要請

イ 見つかるつながるネットワーク*H30.2末

登録者：109名（在宅：97名、施設：6名、廃止：6名）

行方不明件数（市に連絡があった件数）20件（うち11件は事前登録者）

ウ 徘徊高齢者捜索・声かけ模擬訓練の実施

8中学校区で開催

エ 認知症カフェ立ち上げ支援

オ 認知症サポーター養成講座（H30.2末）

開催回数：26回 受講者数：740人（延サポーター数10,234人）

カ 認知症サポーターステップアップ講座の開催

3回1コースで開催 受講者33名

キ 認知症初期集中支援チーム（H29.12末）

相談件数：292件 支援開始件数：11件 訪問回数：68回

(2) 成果

ア 徘徊高齢者捜索・声かけ模擬訓練を各中学校区で行うことにより、子供を含めたさまざまな世代へ周知ができてきている。

イ 認知症の人とその家族を対象にした認知症カフェが少しずつ増加している。

ウ 認知症サポーターステップアップ講座を開催し、地域活動に興味を持っている人を把握することができた。

エ 行方不明になっても早期に発見・保護ができてきている。

(3) 課題

ア 介護家族支援の取組ができていない。

イ 認知症サポーター、ステップアップ講座修了者の活躍の場を増やす。

ウ 見つかるつながるネットワークの周知

平成30年度 地域包括ケアの事業計画について

1 地域での取り組み

- (1) 町内福祉委員会中心の地域見守り活動の継続と推進
- (2) 介護予防・生活支援に関する住民活動の拡充
- (3) 医療と介護、地域が連携した地域ケア個別会議への参加
- (4) 地域の課題の解決策の検討を中心とした地域ケア地区会議への参加

2 地域ケア会議の開催と各部会の活動

- (1) 地域ケア個別会議の開催
困難事例を中心に医療・介護・福祉の専門職と地域の関係者が連携し、個別支援に向けた検討を行う。
また、地域におけるニーズ把握の材料とする。
- (2) 地域ケア地区会議の開催
地域の課題を明らかにし、その解決策を検討するとともに、必要に応じ、保健福祉部会での検討や地域ケア推進会議への提案につなげる。
- (3) 地域ケア推進会議の開催
 - ア 地域ケア地区会議から提案された課題の解決策について協議する。
 - イ 在宅医療・介護に関する課題の抽出と対応策の検討を行う。
 - ウ 在宅医療介護連携のための研修会については運営方法や内容の検討を行い、より連携を深めるよう効果的な実施を目指す。
 - エ 各部会でテーマについて検討し、地域包括ケアの推進における問題点とその解決策等を探る。

3 主な取り組み

- (1) 在宅医療介護連携の推進
 - ア 安城市医療・介護・福祉ネットワーク「サルビー見守りネット」の活用の推進と近隣市との連携
 - イ 在宅医療に関する普及啓発
 - ウ 在宅医療サポートセンターの設置
- (2) 認知症施策の強化
 - ア 認知症の人とその家族の支援に向けた取り組み（若年性認知症を含む）
 - イ 認知症サポーター、ステップアップ講座修了者を中心とした活動の場の検討
 - ウ 見つかるつながるネットワークの周知と活用の促進
 - エ 専門職の認知症対応力の向上に向けた取組（研修会等）
- (3) 生活支援体制整備事業の拡充
 - ア 第1層生活支援コーディネーターを配置し、NPOや生協などが行っている生活支援の把握とネットワーク化を図る。
 - イ 住民活動の担い手の養成に向けた取り組みを行う。
- (4) 地域における介護予防の取組の充実
 - ア 町内会健康体操教室をはじめとする地域の介護予防に資する活動や身近な通いの場の拡充を図る
 - イ 元気な高齢者が活躍できる場や機会を充実する
- (5) 障害福祉の関係機関との連携を強化し、地域包括ケアシステムの推進を図る。
- (6) 宅建協会碧海支部会員を対象に住宅確保要配慮者への対応に関するアンケートを実施

施設整備について(平成30年4月開業)

施設種別	定員	名称	所在地	日常生活 圏域	併設施設
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	18人	グループホームこころくばり	篠目町	篠目中学校区	看護小規模多機能型居宅介護
地域密着型介護老人福祉施設(小規模特別養護老人ホーム)	29人	特別養護老人ホームこころくばり			
地域密着型特定施設入居者生活介護	29人	すえひろ翔裕館	末広町	安城南中学校区	なし
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	100人	特別養護老人ホームひまわり福釜	福釜町	安城西中学校区	ショートステイ (20床) デイサービス (30人)
養護老人ホーム	50人	安城市養護老人ホーム (社会福祉法人安祥福祉会 に移管)	和泉町		なし

安城市在宅医療サポートセンター
(在宅医療・介護連携推進事業)

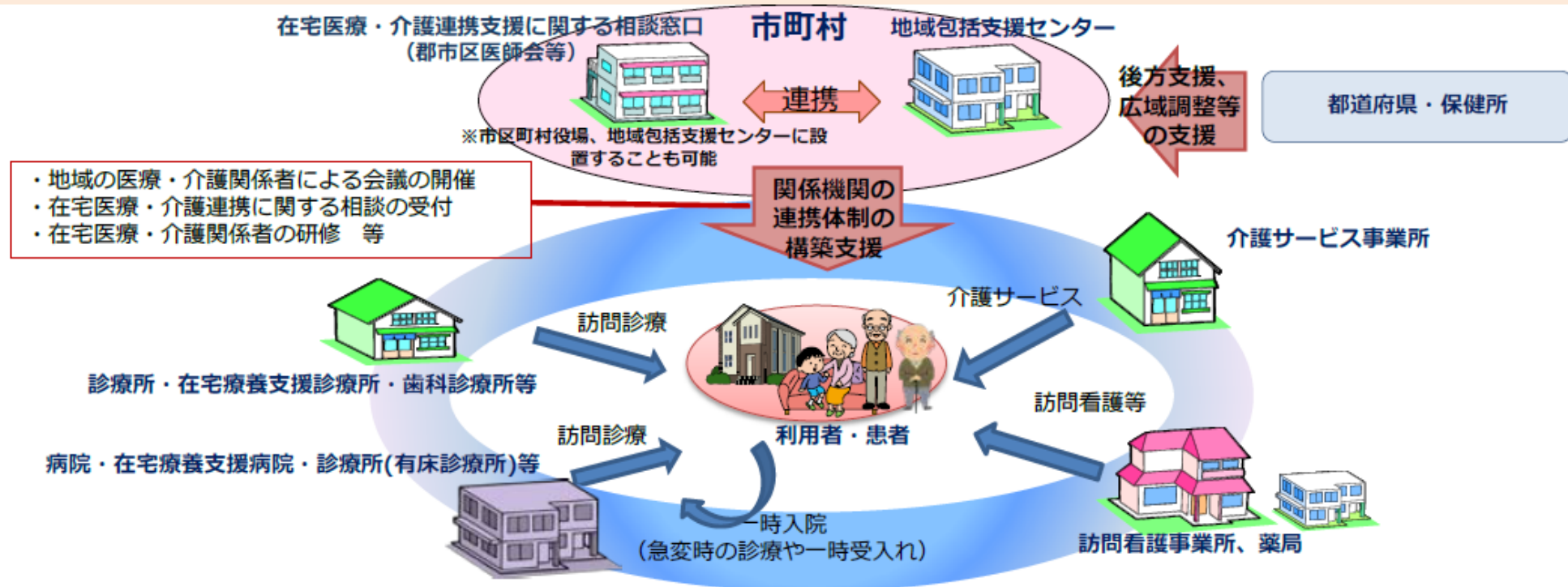
在宅医療・介護連携の推進

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関（※）が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要。

（※）在宅療養を支える関係機関の例

- ・診療所・在宅療養支援診療所・歯科診療所等（定期的な訪問診療等の実施）
- ・病院・在宅療養支援病院・診療所（有床診療所）等（急変時の診療・一時的な入院の受入れの実施）
- ・訪問看護事業所、薬局（医療機関と連携し、服薬管理や点滴・褥瘡処置等の医療処置、看取りケアの実施等）
- ・介護サービス事業所（入浴、排せつ、食事等の介護の実施）

- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、都道府県・保健所の支援の下、市区町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する。



事業内容

- (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ) 医療・介護関係者の研修
- (キ) 地域住民への普及啓発
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

本市の事業概要

▶ 事業開始 平成30年4月1日

(H27～29年度は、愛知県の補助事業で安城市医師会が実施)

▶ 委託先 一般社団法人 安城市医師会

▶ 場所 八千代病院内 (新館1階)

▶ 配置人員 2名 (訪問看護など在宅医療に精通した人)

▶ 業務内容 介護保険法 地域支援事業

在宅医療・介護連携推進事業の(ア)から(ク)

県内各市町村の状況（実施方法）

（単位：か所）

	(ア)資源の把握	(イ)課題抽出と対応策検討	(ウ)提供体制の構築推進	(エ)情報共有の支援	(オ)相談支援	(カ)研修	(キ)普及啓発	(ク)関係市町村の連携	構成比
委託等	49	40	48	41	54	53	47	41	84.2%
直接実施	7	14	6	13	2	5	10	13	15.8%
計	56	54	54	54	56	58	57	54	100.0%

県内54市町村（ただし、委託先が複数の場合あり。）

県内各市町村の状況（委託先）

（単位：か所）

	(ア)資源の把握	(イ)課題抽出と対応策検討	(ウ)提供体制の構築推進	(エ)情報共有の支援	(オ)相談支援	(カ)研修	(キ)普及啓発	(ク)関係市町村の連携	構成比
医師会	37	30	38	31	37	37	33	31	73.5%
医療機関	3	3	3	3	8	6	5	3	9.1%
地域包括支援センター等	9	7	7	7	9	10	9	7	17.4%
計	49	40	48	41	54	53	47	41	100.0%

安城市在宅医療サポートセンターの強み

- ▶ 医師会に委託することにより、三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）との円滑な連携が促進できる。
- ▶ 医師会に委託することで、福祉・介護関係者にとってアクセスしやすい医療関係者の相談窓口として機能を発揮できる。
- ▶ 病院や地域での業務経験を有する医療・介護・福祉に精通した保健師・看護師が事業を担当することにより、専門性の高い相談にも幅広く対応ができる。
- ▶ 多職種連携を促進するための質の高い研修企画や研修開催の支援が行える。
- ▶ 高齢者のワンストップ相談窓口である地域包括支援センターを、医療面から後方支援できる。
- ▶ 専門知識を持った担当者が在宅医療に関する住民向け講座の講師を行い、地域住民へ普及啓発を行っていく。

例えばこんな相談も . . .

- ▶ 訪問診療を行ってくれる先生を教えてください . . . (住民・ケアマネ)
- ▶ 訪問歯科診療を受けたいけど、どこに申し込んだら? (ケアマネ)
- ▶ こんな方に訪問看護を利用できるのだろうか . . . (包括・ケアマネ)
- ▶ 医師との連携を上手く取るには . . . (ケアマネ・訪問看護)
- ▶ 病院との連携を円滑に進めるにはどうしたら? (包括・ケアマネ)
- ▶ 医療材料とかの発注はどうしたら良いのか。 (医師)
- ▶ 訪問診療の算定はどうやるの? (医師)
- ▶ 訪問看護にどうやって指示を出せば . . . (医師)

安城市の在宅医療・介護の連携を推進する役割を担っていきます

- ▶ 担当 : 河井丈幸 (保健師・看護師)
永井知直実 (保健師・看護師)
- 安城市在宅医療サポートセンター
 - ▶ 安城市住吉町2-2-7 八千代病院内 TEL/FAX 0566-98-8330
- 安城市医師会館
 - ▶ 安城市安城町広美42番地 TEL 0566-76-2596

劇団サルビー見守り隊について

1. 平成 29 年度の活動報告

開催日時	講演名	その他
9/30	安城市民公開講座・認知症を知る講演会 寸劇で知ろう認知症 第 1 部 認知症と思ったらまずはかかりつけ医へ 第 2 部 安城市とみつかるつながるネットワーク	9/23 安城ホームニュース掲載 ※安城市にてDVD貸し出しあり
2/16	安城更生病院市民公開講座 いのちの終わりについて話合おう 患者・家族・医療者で行う協働意思決定支援	
3/9	安城市認知症サポーター養成講座	3/15
3/10	安城市認知症サポーター養成講座	中日新聞記事掲載

2. 平成 30 年度の活動予定

開催日時	講演名	その他
9/1	安城市地域包括ケア市民フォーラム	協働意思決定支援
11/11	8020 歯の表彰式	内容検討中
11/17	市民公開講座・認知症を知る講演会	認知症に関する内容

3. 劇団員について

現在までに 20 名弱の方が、役者や裏方としてご協力いただいております。安城市の地域包括ケアを推進していくため、今後も活動を続けていく予定です。ご協力いただける方は、以下にご連絡ください。

4. 劇団へのお問合せについて

- ・劇団に加入したい
- ・上演に関する事（活動範囲・費用・内容についてなど） など

「安城市在宅医療サポートセンター」

0566-98-8330

担当：永井 ・ 河井



**安城市の医療・介護の
専門職からなる団体です**

市民の皆さんに 在宅医療や介護について わかりやすい情報発信を目指しています！

自宅で亡くなるって
どういうこと？

家族が認知症になった！
どんな対応すればいい？

かかりつけ医を
持っていますか？

在宅介護を知ろう！

最期まで住み慣れた
自宅で過ごすには？

脳卒中を予防するには？



劇団 サルビー見守り隊 団員申込書

年 月 日

氏 名	住 所	メールアドレス	携帯電話番号
勤務先	希 望 役 柄		血 液 型
			型

劇団 サルビー見守り隊 団員申込書

年 月 日

氏 名	住 所	メールアドレス	携帯電話番号
勤務先	希 望 役 柄		血 液 型
			型

劇団 サルビー見守り隊 団員申込書

年 月 日

氏 名	住 所	メールアドレス	携帯電話番号
勤務先	希 望 役 柄		血 液 型
			型

安城市在宅医療介護連携推進のための研修会 運営マニュアル

1 研修会の目的

各専門職種部会メンバーのスキルアップとともに、多職種との連携や協働の推進を行うことを目的とする。

2 開催回数

各部会で年1回程度の実施とする。また、部会メンバーのみの研修会でも他の部会メンバーが参加できる研修会でも可能とする。

3 費用

講師料、会場使用料（公共施設）は市が負担する。他の部会に講師を依頼してもよい。病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会へも依頼可能であり、研修内容に支障が無ければ、連携の意味を含めて他部会に講師を依頼することが望ましい。

【講師料の目安（交通費等込み）】

大学教授クラス（三師会含む）	： 30,000円
准教授クラス	： 20,000円
その他	： 7,500円

4 研修会のテーマ決定

- (1) 次年度に各部会で開催したい研修会のテーマについて、年末頃を目途に部会内で検討し事務局（安城市）へ部会（案）として提出する。
- (2) 1月頃の地域ケア推進会議にて、各部会から提出された次年度研修会（案）について、全体で調整を図り決定する。

5 研修会の講師決定

- (1) 研修会のテーマに相応しい講師を選定し、研修会の開催日について連絡調整をした上で内諾を得る。講師の選定に難航する場合には、地域ケア推進会議や専門職種部会等で協議し、必要に応じて関係者の協力を仰ぐ。
- (2) 講師から内諾を得た後、研修会の日時と講師名を市の担当者へ報告する。その際に、依頼文を本人宛のみで良いか、所属長等にも必要かを確認する。所属長にも必要な場合は、所属長の氏名・役職についても確認しておく。

- (3) 研修会開催の2～3ヶ月前を目途に、市の担当者から講師宛に依頼文を送付する。

6 研修会の会場決定

- (1) 研修会のテーマ及び対象を踏まえて適切な施設を選定する。
- (2) 安城市内の公共施設であれば空き状況を確認後、安城市高齢福祉課へ施設予約を依頼する。
- (3) 高齢福祉課にて予約を行い、予約が取れた場合には依頼元の担当者へ連絡を行う。
- (4) 予約が取れなかった場合には、他施設（病院等）も検討する。

7 各部会での事前準備

(1) 講師への確認事項

- ア 報酬の了解
- イ 配布資料の有無
- ウ 当日の会場への移動方法（電車、自家用車、送迎の有無等）
- エ 当日の発表方法（パワーポイント等）
- オ 持参物品（パソコンの持ち込み等）

(2) 事務局への確認事項

- ア 配布資料の印刷依頼（次第、アンケート、配布資料）及びデータ提出
- イ 上記の講師へ確認した事項の伝達
- ウ 会場必要物品の伝達（プロジェクター、マイク等）
- エ 各部会で準備不可能な物品の準備依頼（発表用パソコン等）
- オ 研修会当日の人手が不足する場合には、事務局へ協力依頼
- ※ 印刷のためのデータ（または原本）は研修会の1週間前までに提出すること。

(3) 準備事項

- ア 当日のスケジュール決定
- イ 当日の役割決定（司会、受付、マイク係等）
- ウ 必要時、広報等の実施
- エ 看板、受付表示、案内表示等の準備
- オ 受付記入表（名簿）の準備

8 当日の流れ

(1) 会場設営

- ア 時間に余裕を持って会場に集合し、受付の設営等の準備を行う。なお、市内公共施設の場合には、高齢福祉課より利用許可書を受け取ってから会場の設営を行う。
- イ 照明、パソコンの動作確認、プロジェクターの映写状況等の確認
- ウ 看板、受付・案内表示、受付記入表（名簿）のセッティング
- エ 講師の案内・誘導の手順確認

(2) 研修会の開演

- ア 受付の実施
- イ 講師が到着したら、誘導とパソコン等の動作確認
- ウ 開演後は、司会進行に沿って実施
- エ 必要時、照明の調節
- オ 講演終了後、マイク係は質疑応答等に対応

(3) 会場片付け

- ア 講演終了後、アンケートの回収
- イ 会場の原状回復（案内表示の回収等）、ゴミや忘れ物の確認
- ウ 消灯、施錠確認後、借用物品等の返却をして終了

9 研修会後の処理

(1) アンケートの集計

研修会終了後、10日以内にアンケートを集計して市へ報告。提出されたアンケート結果を講師へ送付するため、データ等による提出が望ましい。また、アンケートを実施しない場合にも、当日の参加人数等の報告は必ず実施してください。なお、部会内でアンケート集計が困難な場合は、市の担当者にご相談ください。

(2) アンケートの取り扱い

アンケート集計後、アンケート用紙の原本は各部会で廃棄処理をしてください。

(3) 礼状の送付

安城市高齢福祉課より講師宛にアンケート結果および礼状を送付します。

表1 各部会と市の役割

	部会	市
企画	<ul style="list-style-type: none"> ・年内に翌年度に実施したい研修会のテーマ（案）、開催希望月を市に提出する。 ・研修テーマ、ねらいに合った講師、研修形式、対象者を検討する。 	各部会から提出された次年度研修会（案）について、全体で調整を図り、年度末の地域ケア推進会議にて開催月を決定する。
講師	講師名、役職、講師料、依頼文の送付先を市担当者に報告する。（所属長にも依頼文が必要な場合は、所属長の氏名・役職についても確認する。）	依頼文の送付 講師代支払い
開催日時調整	講師の都合、会場等を考慮して開催日を決める。	会場の先行予約が可能な場合は予約する。
会場（公共施設）	会場決定、仮予約	予約、使用料支払い
周知	チラシ等原稿作成・周知	研修対象者への開催案内を する（FAX、メール） チラシ等の印刷
印刷物	原稿（次第、当日配布資料、アンケート、受付簿等）を1週間前までに市へ提出	印刷物のひな型を提供 部会から提出された原稿を印刷する。
当日	運営すべて （講師迎え入れ、会場準備、看板・受付表示、資料配布、司会進行、マイク係、片づけ等）	課長または主幹あいさつ 会場準備、運営の補助（PC、プロジェクター等の設置）
報告	研修会終了後10日以内にアンケート集計し、市へ報告	講師へ礼状の送付

表2 当日準備物品チェック表

各主催部会の準備物品	事務局の準備物品
<input type="checkbox"/> 受付名簿（部会で作成した場合）	<input type="checkbox"/> 印刷物、受付用紙（記名式）、 「受付」「講師」等の表示
<input type="checkbox"/> 看板や横断幕等（必要時）	<input type="checkbox"/> 鉛筆（受付用）
<input type="checkbox"/> 講演発表用パソコン（持ち込みの場合）	<input type="checkbox"/> 講演発表用のパソコン（予備）
	<input type="checkbox"/> レーザーポインター・時計
	<input type="checkbox"/> 講師用の水、紙コップ
	<input type="checkbox"/> 延長コード、ケーブル類
	<input type="checkbox"/> 養生テープ
	<input type="checkbox"/> 使用許可書（公共施設の場合）

安城市在宅医療・介護連携推進のための研修会連絡票

部会名			
研修会担当者		連絡先	TEL メール
研修のテーマ			
開催日時	月 日 () 時 分～ 時 分		
会場			
講師名(ふりがな)			
講師の役職等			
依頼文の送付先			
演題名			
研修会のねらい	対象者： 初任者 ・ 中堅 ・ 管理者レベル (ねらいの記入例) (例)グループワークをとおして、必要な時に必要な看護サービスが円滑に提供できる関係を構築する。		
研修会参加 対象部会	()すべての部会 ()一部の部会(対象部会に☑する) <input type="checkbox"/> 病院部会 <input type="checkbox"/> 医師会部会 <input type="checkbox"/> 歯科医師会部会 <input type="checkbox"/> 薬剤師会部会 <input type="checkbox"/> 訪問看護ネットワーク部会 <input type="checkbox"/> 訪問リハネット部会 <input type="checkbox"/> ケアマネット部会 <input type="checkbox"/> 小規模多機能部会 <input type="checkbox"/> デイネット部会 <input type="checkbox"/> ヘルパーネット部会 <input type="checkbox"/> 施設部会 <input type="checkbox"/> グループホーム部会 <input type="checkbox"/> 住まい部会 <input type="checkbox"/> 地域支援部会 <input type="checkbox"/> 保健福祉部会		

※ 開催日の2か月前までを目安に事務局(担当:寺田)に提出してください
 FAX (0566)74-6789 E-mail terada-yukiko@city.anjo.lg.jp

サルビー見守りネットの運営について

1 登録施設内の利用者管理について（依頼）

1) 職員の異動に伴う利用者管理

様式第2（第9条関係）サルビー見守りネットの利用登録に係る誓約書（システム利用者用）を使用し、施設責任者が施設内の利用者管理をしてください。

2) 施設責任者が交代した場合

様式第1（第9条関係）サルビー見守りネットの利用登録に係る誓約書（施設用）を市に提出してください。

2 サルビー見守りネットの利用状況（報告）

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	合計
患者登録数（新規）	64 人	69 人	133 人
患者記事数（新規）	1708 件	4142 件	5850 件
プロジェクト登録数（新規）	23 件	15 件	38 件
プロジェクト記事数（新規）	102 件	995 件	1102 件
参加機関	123 件	123 件	
登録患者支援者	240 人	283 人	

平成30年度 安城市在宅医療・介護連携推進のための研修予定 (講師等の都合により変更する場合があります)

平成30年4月19日現在

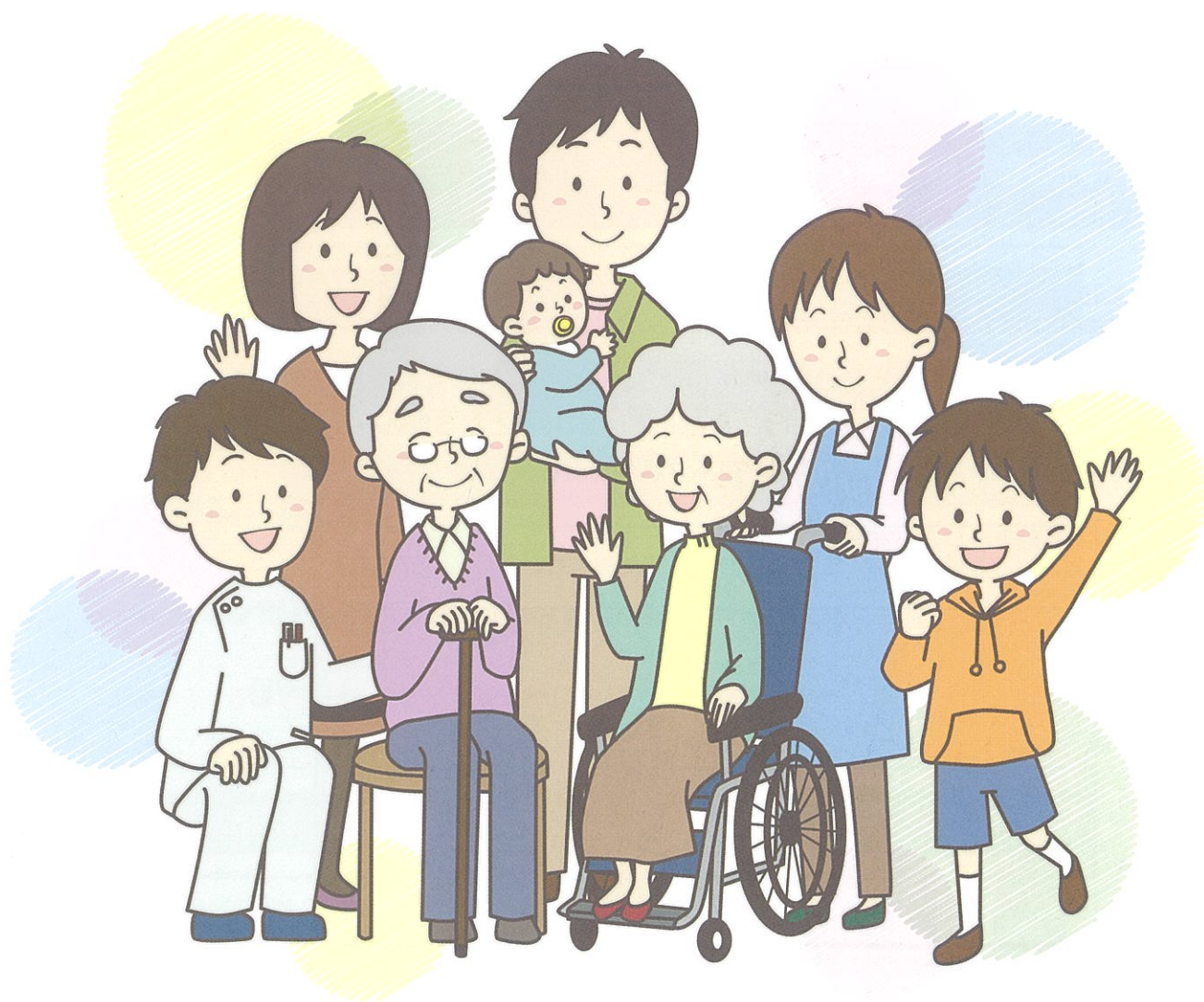
日 時	主催する部会	内 容	講師	参加予定の部会	会場
9 月 1 日 土 PM		①地域包括ケア市民フォーラム 内容:患者・家族・医療者で行う協働意思決定 ②介護人材不足解消のため介護事業者のPRや就職相談、高齢者の就業相談、介護に関する相談などを多目的室で行う。	杉浦 真氏(安城更生病院在宅医療連携推進センター長) ・劇団サルビー見守り隊	一般	アンフォーレ ①ホール ②多目的室
11 月 17 日 土 PM		認知症を知る講演会 ・講演 ・寸劇で知ろう認知症	講師 調整中 ・劇団サルビー見守り隊	一般	市民会館 サルビアホール
5 月 25 日 金 18:00~	訪問看護ネットワーク部会 ケアマネット部会	訪問看護とケアマネジャーの相互理解を深めるための研修会		訪問看護ネットワーク部会 ケアマネット部会	総合福祉センター 会議室3
6 月 日	訪問リハネット部会	リハビリテーション専門職の多様性と可能性		すべての部会	
7 月 日 土	医師会部会	安城市エンドオブライフ・ケア研修会	杉浦 真氏 安城更生病院在宅医療連携推進センター長	すべての部会 (定員30人)	医師会館 2F 大会議室
7 月 月	デイネット部会	地域と事業所と他事業所との連携づくりについて		すべての部会 地域支援部会	
8 月 日	グループホーム部会 小規模多機能部会	認知症のBPSDについて/地域密着型施設のあり方	和田 行男氏	すべての部会	市民会館 大会議室
9 月 日	保健福祉部会	支援における家族理解について		すべての部会	
10 月 18 日 木	歯科医師会部会	口腔ケア研修会「口腔ケアの実際」	板倉 直美氏、中村 尚美氏 (公益社団法人愛知県歯科衛生士会三河南部支部)	すべての部会 (定員40人)	総合福祉センター 会議室3
11 月 日	施設部会	①多様化する介護従事者への対応 または ②介護現場での接遇・マナー		すべての部会	
12 月 日 土	病院部会	多職種ワークショップ研修会 病診連携に関わる退院カンファレンス		すべての部会	安城更生病院 2F 大会議室
1 月 日	デイネット部会	魅力ある職場環境を整備しよう!		すべての部会	
2 月 日	薬剤師部会	在宅で薬剤師ができること	愛知県薬剤師会からの派遣講師	すべての部会	市民会館 視聴覚室
3 月 日	ヘルパーネット部会	生活サポーターとの連携		すべての部会	

～健康で生きがい・ふれあい・安心を育むまち～

あんじョイプラン8

第8次安城市高齢者福祉計画・第7期安城市介護保険事業計画

2018(平成30)～2020年度



2018(平成30)年3月
安城市

高齢者がいつまでも元気に暮らすための

あんじょう コミュニティBOOK



4人に1人が高齢者という超高齢社会を迎え、地域の支えあいが重要になっています。住民同士の“お互いさま”という思いと、地域の中で“気軽に参加できる”場を地域の皆さんの知恵で作っていくことが大切です。

このガイドブックは、「地域の活動や集まりに参加したい、何かの役に立ちたい、活動したい」という思いを、「出かけてみよう、やってみよう」という行動につなげていただくためのガイドブックです。

すでに各地域で行われている活動を掲載していますが、ここに掲載できなかった活動がほかにもたくさんあります。関心をもった方は、お気軽にお問い合わせください。

(問い合わせ先は、各ページまたは最終ページにあります)